

「自然と創造の調和した豊かな都市」をめざして ～中間年度の見直し～



私たちのまち北広島市は、明治17年に広島県人の和田郁次郎ら25戸、103人が、一村形成をめざし、原始の森に開拓の鋤を入れ、まちづくりが始まりました。その後、昭和45年から始まった北広島団地の造成や工業団地の開発などにより、人口が増加し、平成8年には市制を施行いたしました。

まちづくりの指針となる総合計画は、昭和45年に策定した広島町総合開発計画を皮切りに、これまでに4次にわたり策定し、計画に基づいてまちは着実な発展を遂げてきました。

しかし、少子高齢化の進行や人口減少社会の到来など、近年の社会経済情勢は急激に変化しており、地域社会や市民生活に様々な影響を及ぼしています。また、地方分権が進展し、市町村の担う役割が大きくなる中で、自立した自治体として、持続的な行政サービスを提供することが求められています。

このような中、平成23年に第5次となる総合計画を策定し、「希望都市」「交流都市」「成長都市」の3つの将来都市像を定め、「自然と創造の調和した豊かな都市」をめざして、新たなまちづくりをスタートしました。策定から5年が経過し、全国的な人口減少・少子高齢化の加速に伴い、地方創生が急務であることから、市の現状を把握し、現計画のまちづくりのテーマやめざす都市像に向けて、さらなる発展を図るため、中間年度の見直しを行いました。本市には、豊かな自然環境、利便性の高い交通、充実した生活環境など優れた個性があります。それらを生かして、まちづくりを進めていきたいと考えています。

この計画を着実に推進するためには、市民の皆様と行政がまちづくりの目標を共有し、ともに知恵を出し、ともに行動することが、何よりも重要です。市民の皆様には、今後とも一層のご指導、ご協力をお願いいたします。

最後に、この計画の策定にあたって、熱心なご審議を賜りました北広島市長長期総合計画審議会委員の皆様と市議会議員の皆様、また、中間年度の見直しにご尽力いただいた北広島市総合計画推進委員会委員の皆様をはじめ、まちづくりについて貴重なご意見を頂いた多くの市民の皆様へ、心から厚くお礼申し上げます。

平成28年(2016年)3月

北広島市長 上野正三